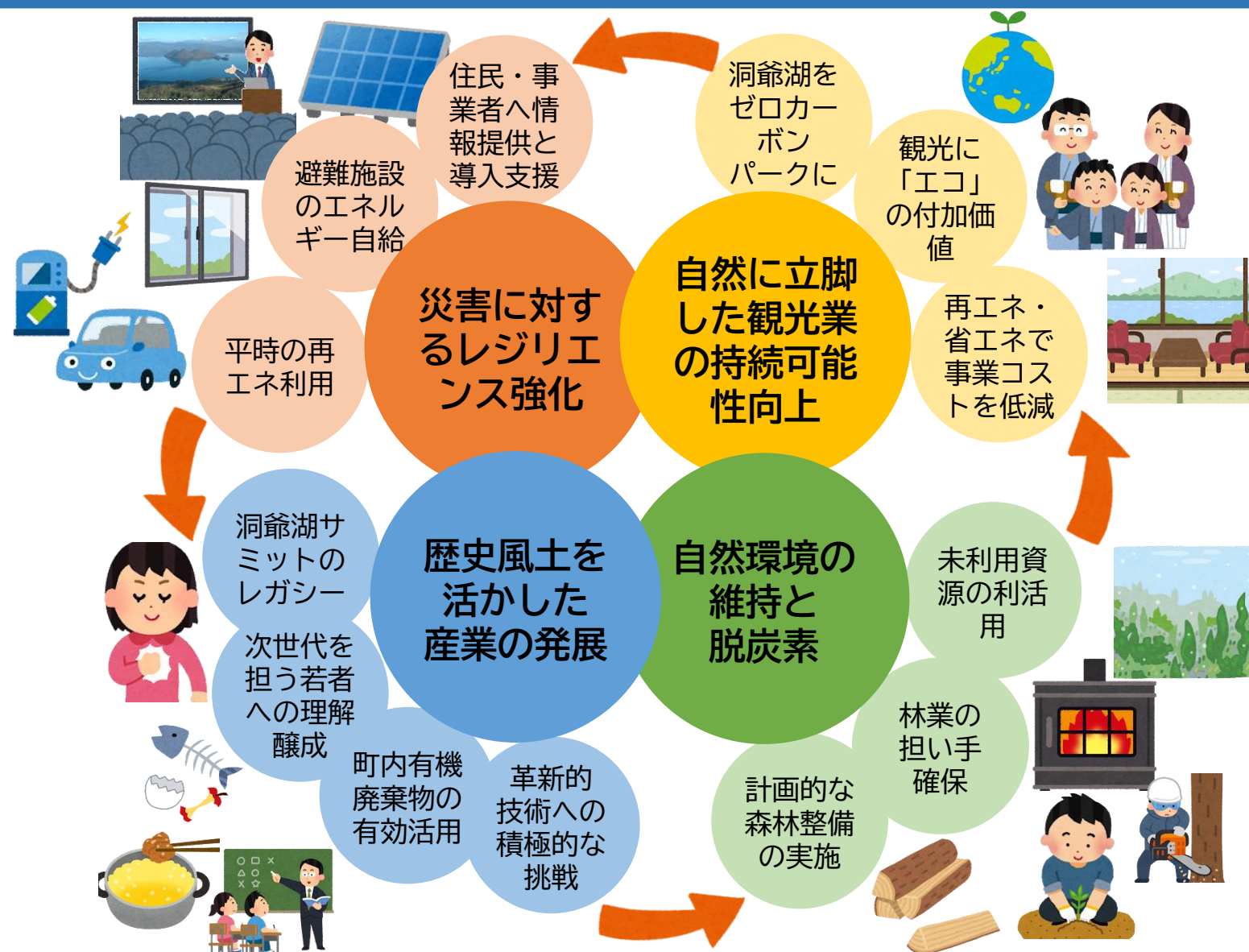




洞爺湖町の脱炭素シナリオと 将来像(案)について



脱炭素シナリオが描く将来像、モデル



災害に対するレジリエンス強化

「災害に対するレジリエンス強化」

住民・事業者へ情報提供と導入支援

- ・住宅や事業所に再エネ施設・設備及び蓄電池の導入を促進
- ・脱炭素の取組や再エネ、省エネについての情報提供
- ・定期的な学習会・説明会の開催

- ・住民の防災・減災意識の醸成
- ・導入のメリット・デメリットの理解を深める

- ・資金源の確保（グリーンボンド、ふるさと納税など）

- ・町独自の補助などの導入支援策を講じていく

避難施設のエネルギー自給

EV（電気自動車）とV2H（Vehicle to Home）のシステムを導入

- ・災害復旧時に避難拠点から町内各所にエネルギーを分配
- ・エネルギー貯蔵利活用システム（水素吸蔵合金、蓄電池、ガス貯蔵、熱貯蔵など）

地域マイクログリッドの構築（エネルギー自給構想を検討）

- ・災害時の避難施設から優先して、太陽光発電などの再エネ施設・設備及び蓄電池を配備

平時の再エネ利用

- ・設備設置施設での自家利用だけでなく、公用車のEV化、地域住民や観光客の“足”となるEV循環バスの運行などを検討

- ・レジリエンス強化のために導入したエネルギー（電力など）の、平時における避難施設での利用方法についても検討

歴史風土を活かした産業の発展

「歴史風土を活かした産業の発展」

洞爺湖サミットの レガシー

中高生対象の学習会・ワークショップ

- ・洞爺湖サミット開催前後からの、廃棄物の堆肥化利用などの**レガシーの継承**



次世代を担う若者への 理解醸成

- ・2050年やその先に向けた持続可能なまちづくりについて考えを深め、**シビックプライド**を高める



町内有機廃棄物の 有効活用

- ・既存の再エネ施設の取組の発展、設備更新、新たな挑戦、町内への普及

- ・再エネの生産、学校給食等の**廃棄物処理経費削減、有機肥料の供給**



ビニールぶくろに入れて口をしぼり、収集容器（たる）へ



革新的技術への積極的な挑戦

- ・地域の資源循環の効率や再エネ産生効率向上した**革新的技術の導入**

- ・建物の壁面にも設置できる太陽電池（ペロブスカイト太陽電池など）
- ・その成果を町内外、各産業へと波及



自然環境の維持と脱炭素

「自然環境の維持と脱炭素」

計画的な森林整備の実施

- ・ **公益的機能が発揮できる森林づくり**に取り組む
- ・ 山地災害等防止機能を重視した森林の整備により、天然の治山ダムや土留などの**治山効果を期待**

防災機能の高い森林の造成

観光地として人気のスポット周辺の森林を、ツアーの実施やレジャー、森林環境教育等の場として利用

- ・ 森林整備
- ・ 造林費用の所有者負担軽減による**未立木地の解消**や**森林経営計画の策定・積極的な実施**につなげる。

林業の担い手確保

- ・ 森林経営計画を策定できる能力ある**人材を育成**する（森林環境譲与税を活用し、町または森林組合に専属の職員を配置するなど）

民有林の森林整備

担い手確保へ活用



未利用資源の利活用

- ・ 藻場の保全・創出による**ブルーカーボン**の利用
- ・ 農業用水路の利用
- ・ 洞爺湖温泉地区の排水利用
- ・ 衛生面に配慮した上下水道利用

ブルーカーボンとは

海の植物は、海水に溶けているCO₂を光合成で吸収する。その後、食物連鎖や枯死後の海底への堆積等により炭素を貯留する。そのバイオマスやその下の土壌に蓄積される炭素のことを、ブルーカーボンと呼ぶ。



出典：環境省

自然に立脚した観光業の持続可能性向上

「自然に立脚した観光業の持続可能性向上」

再エネ・省エネで 事業コストを低減

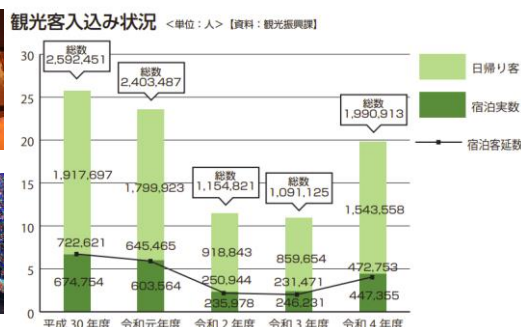
- ・既存設備を見直し、更新時にLEDやヒートポンプのような**省エネ設備導入の推進**

- ・きめ細かな情報提供と施策展開により、各施設の事業コストの低減を図るなど観光地の持続可能性を高めていく
- ・花火やイルミネーション、お祭りなどの既存イベントと脱炭素を絡めることで、イベントの**コスト低減と環境意識が高い人の来町者の増加、参加者の環境意識の向上**を目指す

観光に「エコ」の付加価値

- ・町が誇る景観・環境や脱炭素の取組と絡めた**新たな観光振興策**を検討

- ・洞爺湖町の観光に“滞在期間CO₂排出ゼロ”など「エコ」という付加価値を生み、観光客などの増加を図る起爆剤とする



洞爺湖をゼロカーボン パークに

- ・支笏洞爺国立公園における洞爺湖町領域を「**ゼロカーボンパーク**」にする

- ・国立公園内及び周辺の観光エリアやアクセスを含め、エリア全体の脱炭素化を進める。
- ・プラスチックごみの削減など、**サステナブルな観光地**を目指す



用語解説

- **レジリエンス**：「回復力」や「しなやかさ」という意味の言葉で、まちづくりにおいては、「災害時の対応力」などという意味で使われる。
- **V2H**：電気自動車のバッテリーにある電力を建物で使用する仕組みのこと。
- **マイクログリッド**：小規模電力網とも言い、発電所のようなエネルギー供給源と消費施設を一定の範囲でまとめてつなぎ、エネルギーを地産地消する仕組みのこと。系統線等の既存設備を活用する方法が注目されている。
- **バイオディーゼル**：菜種油や廃食用油などを処理したディーゼルエンジン用のバイオ燃料のこと。洞爺湖町内でも道路パトロール車と作業車の公用車2台を改造し、ホテルや学校給食センターから出される廃食用油を処理し、燃料として使用。
- **シビックプライド**：「都市に対する市民の誇り」と訳されることが多い。「自分自身が関わって、今居る地域をより良くしていこう」とする、当事者意識に基づく自負心や誇りのこと。
- **水素吸蔵合金**：圧力や熱によって水素を吸蔵・放出する合金。水素をガスボンベに貯蔵するのとは比べて安全性が高い。
- **グリーンボンド（環境債）**：企業や国際機関等が、地球温暖化をはじめとする環境的問題の解決に資する事業（グリーンプロジェクト）に要する資金を調達するために発行する債券のこと。
- **ペロブスカイト太陽電池**：ペロブスカイトとという構造を利用して太陽光を電気に変えるシステム。非常に薄くて軽く柔らかく、印刷や塗布するだけで簡単に制作できるという特性を持つ。